ステージ上で練習の成果を発表する弦楽器教室の児童ら

駒ケ根市が初の「エル・システマ音楽祭」

小中学生〝生きる力〟奏でる

ベネズエラ発祥の音楽教育「エル・システマ」事業に取り組む駒ケ根市は24日夜、「エル・システマ子ども音楽祭」を市文化会館で開いた。同事業の一環として今年度から弦楽器教室で学ぶ地元小学生をはじめ、市内の児童や小中学生の合唱団などが参加。ベネズエラからは障がいを持つメンバーらで編成され、国際的に活躍する楽団「アンサンブル・ララ・ソモス」がゲスト出演し、音楽活動による文化交流を図った。

エル・システマは集団での音楽教育を子どもたちに提供するプログラムで忍耐力や協調性、自己表現力を育む効果が注目されている。市では今年度からプログラムを導入。その一環として7月には赤穂東小学校を会場に弦楽器教室が開校し、児童28人がバイオリンの練習に励んでいる。

音楽祭は教室の児童をはじめ地元で音楽に取り組む子どもたちの発表、交流の場として初めて企画した。開会のあいさつで経過を報告した杉本幸治市長は、同事業を契機に「ベネズエラとの交流がいっそう深まれば」と期待した。

この日は合唱や合奏に取り組む8グループがステージで練習の成果を発表した。このうち弦楽器教室の児童はバイオリンを始めて3カ月ほどの初心者ばかり。持てる力で「メリーさんの羊」「10人のインディアン」の2曲を精いっぱい演奏すると、会場から大きな拍手が送られていた。

ベネズエラの音色響く

赤穂南小　障がい者らの楽団訪問

音楽を通じて子どもたちの生きる力を育む「エル・システマ」事業の一環として、駒ケ根市の招きで同市を訪れたベネズエラの楽団「アンサンブル・ララ・ソモス」が23日、市内の赤穂南小学校を訪問した。楽団のメンバーと4年生児童（76人）が互いに合唱や演奏を披露し合い、音楽を通じて国際交流を深めた。

同楽団はベネズエラのエル・システマ特別支援プログラムの一つとし…覚や聴覚などに障が…つメンバーらで…団。白い手袋をして…もに手歌（サイン…を披露するホワイト…コーラスの代表メ…民族楽器などの奏…され、2005年…来、クラシックか…音楽まで幅広いジ…曲を国内外で演奏…る。

赤穂南小学校で児童に演奏を披露する楽団のメンバー

交流会では児童…の音楽会で発表し…「歌よありがとう…の美術館」の2曲…メンバーらを歓迎…いて同楽団が弦楽…ロや打楽器カホン…ある楽器を紹介し…交えた合唱や民族…を披露。美しいハ…と軽快な演奏を響…童らを魅了した。

演奏を聴いた田…んは「リズムが早…演奏だった。手歌…も歌を表現してい…想。ベネズエラで…ラムのディレクタ…るレオナルド・メ…んは「皆さんも音…して、将来ベネズ…てくれたらうれし…び掛けていた。

（堀…